1

NATURE'S DOUBLE WHAMMY

13×17年ぶりの驚異的瞬間
アメリカで2種類の「素数ゼミ」が大発生

13年または17年の周期で一斉に羽化を行う周期ゼミ（素数ゼミ）が今年、
主にアメリカの中西部および南部の州の各地で大量発生している。
素数ゼミの2種類の群れの同時発生は1803年以来、221年ぶりとなり、
この極めてまれな自然界の現象に対する市民の反応はさまざまだ。

ウィットニー・ワイルド記者の発音と話し方の特徴

アメリカ英語

速さ：★★⯪　**発音**：★⯪☆
語彙：★★☆　**総合**：★★☆
［★聞き取りやすい↔★★★難しい］

キレのある滑舌（かつぜつ）で、強い癖やアクセントのないアメリカ英語。cicadaはアメリカ英語では「スィケイダ」、イギリス英語では「スィカーダ」と発音する傾向がある。“Super Bowl of superbugs” のような、韻を踏んだ言葉遊びにも注目したい。

キーワード

ニュースを聴く前にチェックしておこう　30

□brood	[brúːd]	《集合的に》同時に生まれる動物の子・幼虫
□cyclical	[síklikəl]	周期的な
□cicada	[sikéidə]	セミ
□emerge	[imə́ːrdʒ]	現れる、出現する、発生する
□crawl	[krɔ́ːl]	はう、はって進む
□dub A B	[dʌ́b]	AをBと呼ぶ、AにBというあだ名を付ける
□be immersed in	[imə́ːrst]	～に没頭している、夢中になっている
□entomological	[èntəməládʒəkəl]	昆虫学の
□showcase	[ʃóukèis]	～を目立つように示す、披露する、紹介する
□enthralling	[inθrɔ́ːliŋ]	魅了するような、夢中にさせるような

写真：Michael G McKinne / Shutterstock.com

土の中の“隣人”がはい出てくる!?

ナチュラル 31 ゆっくり 35

If you live in [any of] several midwest or southern states,/ this spring, ❶neighbors you likely didn't know were there/ will make their presence known by the billions:/ two broods of cyclical cicadas will emerge.// Brood XIX and Brood XIII have been living underground for 13 and 17 years, ❷each—/ [since] well before Abby Warren and Persia Arcillas were born.//

もし(アメリカ)中西部や南部の州に住んでいる人なら/ この春、おそらく今までそこにいるとは知らなかった隣人が/ 数十億単位でその存在を知らしめることになるでしょう/ 周期ゼミ(素数ゼミ)の2つの群れ(ブルード)が発生するからです。// ブルード19とブルード13は、それぞれ13年間と17年間、地中で暮らしていました——/ アビー・ウォーレンちゃんとパージャ・アーシラスちゃんが生まれるずっと前から。//

ブルード19、ブルード13という素数ゼミの群れがそれぞれ13年、17年ぶりに地上へはい出る

理解のポイント

❶の文は、neighbors (who) were there という主語に you likely didn't know が挿入されていると考えるとよい。述語動詞は will make、目的語は their presence、補語は known である。ここの前置詞 by は「〜の単位で」を表している。

❷前者と後者をその順で指す場合の「それぞれ」は each ではなく respectively が適切(ゆっくりスピードの吹き込み)。

double whammy	《タイトル》《話》二重苦、ダブルパンチ
midwest	= midwestern アメリカ中西部の
neighbor	隣人、近所の人
by the billions	数十億という単位で、何十億という単位で
brood	《集合的に》同時に生まれる動物の子・幼虫 ▶周期ゼミの群れは、発生する年が同じものをまとめて「ブルード(年次集団)」と呼び、それぞれにローマ数字が付されている。
cyclical	周期的な
cicada	セミ
emerge	現れる、出現する、発生する
underground	地下で、地中に
well before	〜よりずっと前(に)